

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	秋田大学	整理番号	O01
プログラム名称	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	小川 信明	プログラム コーディネーター	柴山 敦

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、通常の専門課程のプログラムに加えて、グローバルな舞台で活躍出来るための資源関連の特論（修士及び博士課程）が設けられ、海外インターンシップや国内外でのフィールドワーク、さらには **Project Based Learning (PBL)** では、自発的な課題設定に対して調査及びグループ討議を行うことにより解決方法の提言に至るプロセスを経験させるなど、目標に即した独自性のある学位プログラムが組み立てられており、評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、実践的な国際研究や民間企業を含めた大型共同研究プロジェクトへの参加、さらに、産業界の講師による資源学リテラシーの講義などの取組により、新たな分野に挑戦し、国際的な舞台でも活躍出来る人材の育成に向けて着実に実績を積み重ねていると判断できる。しかし、これらの取組において育成されるリーダーの具体的なイメージが十分に提示されているとは言えず、対応が望まれる。特に、キャリアパス開拓の観点からも、本プログラムで鍛えられ、成長した人材像を明示しながら、企業等に対して本プログラムの効果を積極的にアピールしていくことが望まれる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制については、当該分野の代表的な教員を中心に秋田大学の教員が多数プログラムに参画し、各学生に2名のメンターを配している。また、産業界や海外の大学教員を講師陣とする講義等を系統的に開講するなど、当初の計画に従い着実に整備されていることは評価できる。

優秀な学生の獲得については、定員を満たしておらず、また、日本人学生の獲得に苦戦しており、現状をどのように改善するかが非常に大きな課題となっている。国内唯一の鉱山系研究科であるという利点や、本プログラムでなされる取組・成果を十分に活かし、社会人も含めて日本人に対する効果的なリクルート活動を行うことが必要である。日本人学生の博士課程進学率の低さが、修士課程修了時点での関連業界への就職状況が好調であることに起因するのであれば、本プログラムに参画している企業と協力し、博士課程を修了した学生のキャリアパスの開拓に向けてキャンペーンを行うなどの工夫が望ましい。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、修士課程でラボローテーションや資源学特定必修課題研究等を課し、博士後期課程では研究プロポーザル、英語による中間報告会の開催、OJE型教育研究等、多彩なプログラムを課すことによって博士課程に相応しいトレーニングが行われており、それらの成果を評価するための十分な審査体制が整備されていると判断できる。

事業の定着・発展については、国際資源学研究科の新設が平成28年度を予定として計画が前倒しに進められており、今後着実に進むものと期待される。